

Ogura (1930) が新属新種として記載した *Yezopteris polycycloides* Ogura であることがわかった。新標本は保存が良く、原記載では多環状と言われていた維管束の配列がヘゴ科型であることが明らかになり、さらに、内鞘に放射方向に長い大型の細胞が発達することなど、組織的な特徴もいくつか明らかになった。これらの特徴を化石種を含めた他のシダ類と比較したところ、*Yezopteris* は現在のヘゴ科と共通の祖先から白亜紀中期以前に分化した絶滅群であると推定された。新標本は大型であることから *Y. polycycloides* の葉柄部分と思われる。

□De Vogel, E. F.: **Seedlings of dicotyledons** 465 pp. +2 プレート. 1980. Centre for Agricultural Publishing and Documentation, Wageningen. 最近被子植物の芽生えについていくつかの著書が出版されている。それらの中でマレーシア熱帯に生育する種類の芽生えについての研究を基礎として編められている点が本書の大きな特色である。本書は双子葉類の芽生えについての一般論とマレーシアの双子葉類樹木 150 種類の芽生えの図説との 2 部から構成されている。一般論は全体の頁数の約 $\frac{1}{3}$ で、芽生えの術語、芽生えの研究史、芽生えの定義、芽生えの形態、機能および変異、芽生えの分類、芽生えの型 *Seedling types*、芽生えと分類学、芽生えの生態などが扱われている。芽生えの型では芽生えを 16 型に分類・命名したうえで、マレーシア産樹木でみるとそれらの型が分類体系とどのように関連しているかについて整理し、さらにそれら 16 型間の類縁関係について考察している。Van Steenis (1972) の *Mountain flora of Java* の植物画を画いた画家による *Shorea* や *Quercus* などの芽生えが水彩画で 20 枚ほど挿入されており、目を楽しませてくれる。残りの全部はマレーシア産樹木の芽生えを図説した部分で、全体の約 $\frac{2}{3}$ を占める。著者はオランダの Rijksherbarium に所属し、自身で多くの種子をスマトラ、ジャワ、ボルネオなどで採集し、Bogor 植物園内で播いて記載や図を作った。全体によく編められており、多数の文献も引用されているため、分類学的立場からの芽生えに関する文献として推薦できるものである。しかしながら、樹木の芽生えに基づく研究から草本までを含めた芽生え全体に論を拡げている点で論義に飛躍のある部分が散見される。また種類の撰択に分類学的配慮を望みたい点がある。例えばマレーシア固有種を多く取り上げれば、より特色となったであろう。*Desmodium* の芽生えについて Ginkgoana 1 (1973) の私の論文を引用した部分 (p. 119-120) では *Codariocalyx* や *Tadehagi* などについてのデータをも利用すればもう一步論議が進んだと思う。印刷、製本はよく出来ており、図を多くて読み易い。(大橋広好)